

藤の実がタネを飛ばした時の写真

山田 功

「榭」第 72 号（平成 26 年 12 月）に「藤の実はいつはぜるか」を發表させていただきました。幾人かの方からは、関心を持って読んでくださった感想をいただきました。お礼を申し上げます。

その後、私たちは、藤の実がはぜる瞬間の鮮明な写真を撮りたいと、新たな挑戦を始めました。そして、今年の藤の実がはぜるシーズン（2015 年春）の終わる頃、何とか撮影ができました。その写真をここに報告します。

藤の実は、先回同様川口修君の庭の藤の木よりもらいました。藤の木は 2 年も続けてたくさんの実をつけ、疲れているだろうと心配しながらの撮影でありました。

1 山田功の方法

私は藤の実がはぜる瞬間に出す、ぴしっという鋭い音に着目し、その音でカメラのシャッターが切れないかと考えました。そこで、回路図を見付け、部品を集め、カメラに付ける音センサーを組み立てました。部屋の中にひもを張り、そこに 10 個ほどの藤の実を吊るし、カメラはピント合わせも、露光も全てマニュアルにしました。センサーがはたらくと、ストロボが光り、シャッターが切れるようにセットをし、藤の実がはぜるのを待ちました。

前年の観測結果から、晴天が続き、次の日は天候の悪くなる予報の日で、午後の湿度が 30%を切る日が狙い目です。そんな日にカメラをセットして待ちました。しかしなかなかうまくはいきません。とうとう部屋に吊るした藤の実は、6 個になってしまいました。もうこれが最後だろうと思い再セットをしたのが、2015 年 5 月 8 日の午後でした。部屋に置いた湿度計の目盛も下がってきました。



名古屋地方気象台の記録では、その日は、平均湿度 51%、最低湿度 24%でした。カメラの傍で、仕事をしておりましたら 2 度鋭い音がして藤の実のはぜましたが、ストロボが光りません。この装置ではだめなのかとあきらめ、部屋を出ました。その後、午後 5 時 1 分カメラは、はぜて飛ぶ藤の実をとらえておりました。使用カメラはニコン D610。それが上の写真です。はぜて飛んだタネが 1 個と莢がピントは少々悪いが写っておりました。

これを見ての反省点は、音をキャッチするマイクをもっと藤の実に近づけること。絞りはもっと絞ること。ピント合わせを始めにしっかりしておくこと。残念ながら、これで藤

の実がなくなり、今年の撮影は終了です。

2 川口修君の方法

川口修君は、先回は所有していたデジタルカメラの動画モードを使ってはぜる瞬間をとらえてくれましたが、タネのスピードが速すぎ、ぼやけて流れた映像しか撮れませんでした。

そこで、新しい高性能のカメラを入手し挑戦しました。ビデオカメラはソニーアクションカムHDR-AS100V。先回は1秒間に60コマしか撮影できなかったのが、このカメラ



写真：丸の中が、タネと莢です

では1秒間に240コマ撮影できます。解像度もうんとよくなっています。

2015年3月26日晴、湿度も低い。名古屋地方気象台の記録では、一日中快晴、平均湿度33%、最低湿度13%でした。庭の藤棚のどのあたりの藤の実がはぜるのかは、まったくわかりません。それらしき方向へカメラを向け、シャッターを押し待ちました。カメラは6時間記録が可能です。後は運しかありません。午後6時頃、カメラの前の藤の実がはぜ、録画ができていました。撮れた動画を0.01倍速で見ていただくことができないのが残念です。大変なスピードでタネや莢が飛んでいく様子が今回はとてもよくわかります。ここには、その動画の中の1枚を掲示しました。丸で囲んだのが飛んでいるタネと莢です。川口修君は、その後も室内で撮影に成功をしております。

寅彦の随筆「藤の実」を読み、自然界に起こる「潮時」や、はぜる時の音に関心を持ち、藤の実のはぜる時の観察を始めました。先回報告をしたように、実際の藤の実がはぜる音に驚き、はぜる「潮時」を湿度から知ることができました。何百個もの藤の実のはぜる時を観察したのは、我々が初めてかもしれません。

そして、今回の撮影です。カメラがとらえた画像を見たとき、「やった！」と一人喜んだものです。諦めかけていたそのシーズン最後のできごとでした。

この映像から、藤の実がはじけ飛ぶ機構が解明できるというわけではありません。しかし、普段見ることができない、瞬間の映像をキャッチすることができました。自然のふしぎに驚き、始めた、ささやかな挑戦でした。

身近な自然現象の中に、私共がまだ気付いていない面白い現象が、たくさんあるようです。そんなことに気付かせてくれたのが寺田寅彦の随筆でした。